

プロレタリア階級独裁の
勝利万歳

—パリ・コンミュン百周年を記念して—

北京 外文出版社

プロレタリア階級独裁の 勝利万歳

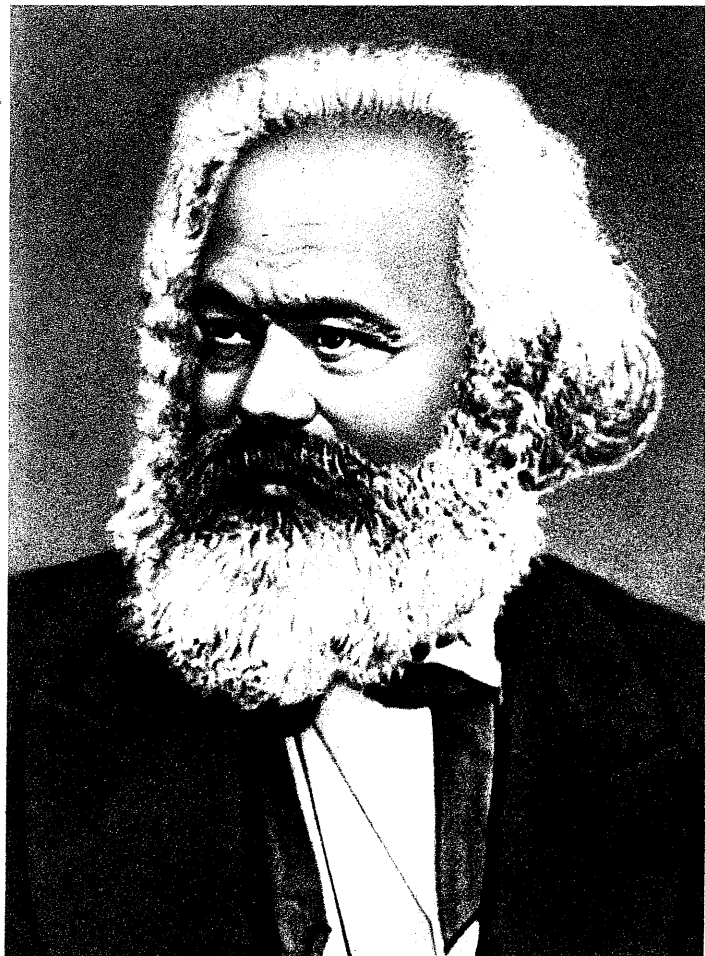
—パリ・コンミュン百周年を記念して—

『人民日報』『紅旗』『解放軍報』編集部

(1971年3月18日)

外文出版社

北京



国際プロレタリア階級の偉大な
教師、指導者カール・マルクス



国際プロレタリア階級の偉大な教師、
指導者フリードリヒ・エンゲルス

労働者のパリは、そのコンミュンとともに、新
社会の光榮ある先驅者として永久にたたえられるで
あろう。これに命をささげた人びとは、労働者階級
の偉大な心のうちに永久にまつられている。

カール・マルクス

コンミュニオンは敗北しても、闘争は先へ延ばされるだけである。コンミュニオンの諸原則は永遠であり、それをおしつぶすことはできない。労働者階級が解放されるまで、それらの原則はくりかえし発現されるであらう。

カール・マルクス

目次

一、パリ・コンミュニオンの原則は永遠である……………	1
二、革命的人民が鉄砲を握ることの極度の重要性……………	6
三、革命は何百何千万の大衆の事業である……………	12
四、真のマルクス・レーニン主義の政党がなければならない……………	18
五、現代修正主義は パリ・コンミュニオンの革命的原則の裏切り者である……………	23
六、プロレタリア階級独裁のもとでひきつづき革命を おこなうことを堅持し、いっそう大きな勝利をかちとらう……………	30

プロレタリア階級独裁の勝利万歳

——パリ・コンミュン百周年を記念して

『人民日報』『紅旗』『解放軍報』編集部

(一九七一年三月十八日)

一、パリ・コンミュンの原則は永遠である

今年の三月十八日は、パリ・コンミュン百周年記念日にあたる。偉大な指導者毛主席の教えをうけている中国共産党員と全国人民は、深いプロレタリア国際主義の感情をいだいて、全世界のプロレタリア階級および革命的人民とともに、この偉大な「プロレタリア階級の祝日」①を熱烈に祝うものである。

百年まえ、フランス・パリのプロレタリア階級と広はんな人民大衆は英雄的な武装蜂起を執行し、パリ・コンミュンを創立した。これは人類史上にあらわれた最初のプロレタリア階級の権力であり、プロレタリア階級がブルジョア階級をくつがえし、プロレタリア階級独裁をうちたてた最初の偉大な試みであった。

パリ・コンミュニオンはブルジョア反動政府の軍隊と警察を廃し、武装した人民でそれにとつてかわらせ、鉄砲を労働者階級の手に握らせた。

パリ・コンミュニオンは人民を奴隷化するブルジョア階級の官僚機構をうちこわし、労働者階級自身の政府を創設し、勤労人民の利益を守る一連の政策をとり、人民大衆を組織して積極的に国家の管理に参加させた。

パリ・コンミュニオンの英雄たちはプロレタリア階級の権力をうちたて守る戦闘で、非凡な革命的創意性と天をつく革命的積極性、わが身をかえりみずに奮戦する英雄主義を示し、代々の革命的人民から敬慕されている。

殺人鬼ティエールがビスマルクと結託しておこなった軍事攻撃と血の弾圧によって、パリ・コンミュニオンは失敗に終わったとはいえ、その歴史的功績は不滅である。まさにマルクスが指摘しているように、「栄えある三月十八日運動は人類を階級制度から永遠に解放する偉大な社会革命の曙光であった」②。

パリに硝煙が立ちこめ、戦闘がまだすすめられていたときに、マルクスは、「コンミュニオンは敗北しても、闘争は先へ延ばされるだけである。コンミュニオンの諸原則は永遠であり、それをおしつづすことはできない。労働者階級が解放されるまで、それらの原則はくりかえし発現される

であろう」③と指摘した。

プロレタリア階級の偉大な教師マルクスとエンゲルスがパリ・コンミュニオンの実践にもとづいて総括した革命の原則とはなにか？

概括するというならば、つまり「労働者階級は、できあいの国家機構をそのままが手に握って、自分自身の目的のために使うことはできない」④、プロレタリア階級はかならず革命の暴力によって古い国家機構を「うちこわし」、「うち砕き」⑤、「プロレタリア階級独裁を執行し」⑥なければならないということである。

マルクスはこの原則を説明するにあたって、「プロレタリア階級独裁の第一条件はプロレタリア階級の軍隊である。労働者階級は戦場において自己を解放する権利をたたかいとらなければならない」⑦と強く指摘している。プロレタリア階級は革命の武装力に依拠してこそ反動階級の支配をくつがえし、さらにすすんで自己の歴史的使命のすべてを達成することができる。

マルクスはまた、プロレタリア階級独裁の国家は、「議会ふうの団体ではなくて、同時に執行府でもあり、立法府でもある行動的団体でなければならない」⑧と指摘している。

まさにレーニンが指摘しているように、「国家の問題におけるマルクス主義のもっとも卓越した、もっとも重要な思想の一つは、すなわち『プロレタリア階級独裁』（パリ・コンミュニオン

後マルクスとエンゲルスはこう言うようになったが()の思想である」⑩。革命の暴力でブルジョア階級の国家機構をうち砕き、プロレタリア階級独裁をうちたてることを堅持するか、それともブルジョア階級の国家機構を守り、プロレタリア階級独裁に反対するかは、この百年らしい、マルクス主義と、修正主義、改良主義、無政府主義およびさまざまなブルジョア階級、小ブルジョア階級の思想とがくりかえしすすめてきた闘争の焦点であり、国際共産主義運動における二つの路線がくりかえしすすめてきた闘争の焦点である。第二インターの修正主義からソ修裏切り者集団を中心とする現代修正主義にいたるまで、いずれも、まさにプロレタリア階級独裁というこの根本問題で、マルクス主義を徹底的に裏切ったのである。

百年の歴史は、マルクス主義の、プロレタリア革命とプロレタリア階級独裁についての学説が無敵のものであることをあますところなく立証している。

パリ・コンミュニョンの蜂起の四十六年後に、ロシアのプロレタリア階級は偉大なレーニンの指導のもとに、武装蜂起によって十月社会主義革命の勝利をかちとり、世界のプロレタリア革命とプロレタリア階級独裁の新しい時代をきりひらいた。レーニンはかつて、古い国家機構をうちわす道でパリ・コンミュニョンは「世界的第一歩をふみだし、ソビエト権力はその第二步をすめた」⑪とのべたことがある。

パリ・コンミュニョンの蜂起の七十八年後に、中国人民は偉大な指導者毛主席の指導のもとに、革命の勝利をかちとった。毛主席は、農村根拠地をうちたて、農村をもって都市を包囲し、最後に都市を奪取するという道をきりひらき、中国人民をひきいて、長期の革命戦争をへて、帝國主義、封建主義、官僚資本主義の反動支配をくつがえし、古い国家機構をうちこわし、中国で人民民主主義独裁、すなわちプロレタリア階級独裁を実現した。つづいて毛主席はまた、中国人民をひきいてプロレタリア階級独裁のもとでひきつづき革命をおこない、社会主義の広びろとした道を勝利のうちに前進している。

一世紀このかた、全世界のプロレタリア階級と被抑圧人民、被抑圧民族は、あとからあとと身を挺してつきすすみ、勇敢に奮闘し、互いに支援しあい、励ましあって、社会主義革命と民族民主革命をたえず推進し、きわめて輝かしい勝利をかちとってきた。まさに毛沢東同志が指摘しているように、「いまは、全世界の資本主義と帝國主義が滅亡にむかい、全世界の社会主義と人民民主主義が勝利にむかう歴史的時代である」⑫。パリ・コンミュニョンの事業は新しい歴史的条件のもとで、またいっそう高い段階で、広びろとした展開をみせている。世界全体の姿には天地をくつがえす大きな変化があらわれている。

パリ・コンミュニョン十周年を記念するにさいし、マルクスとエンゲルスは革命の激情にあふれ

てヨーロッパの労働者階級に、「旧世界の権力を握っている者どもが、完全に消滅したつもりでいたコンミュニオンは、いまや、これまでになく強力である。そこでわたしたちは諸君とともに、コンミュニオン万歳！をさげぶことができるのである」^⑩とのべた。こんにち、パリ・コンミュニオンのかかげた革命のたいまつは、全世界で勢いよく燃えさかり、帝国主義、社会帝国主義、各国反動派の末日はもうそう遠くはない。こうしたときに、パリ・コンミュニオン百周年を記念する全世界のマルクス・レーニン主義者とプロレタリア階級、革命的人民は、なおさらのこと大きな確信に燃えて、コンミュニオン万歳！プロレタリア革命とプロレタリア階級独裁の勝利万歳！と高らかに叫ぶことができる。

パリ・コンミュニオンを記念するにあたって、われわれは、マルクス・レーニン主義のプロレタリア革命とプロレタリア階級独裁についての学説を学習し、歴史の経験をくみとり、ソ修裏切り者集団を中心とする現代修正主義を批判し、マルクス・レーニン主義の革命路線を堅持し、全世界人民と団結して、いっそう大きな勝利をかちとらなければならない。

二、革命的人民が鉄砲を握ることの極度の重要性

パリ・コンミュニオンの歴史的経験は、革命の武装力を握ることがプロレタリア革命とプロレタリア階級独裁にとって極度に重要であることをあますところなく立証している。

レーニンは、パリ・コンミュニオンの経験を論じたさい、エンゲルスの重要な論断、つまり、フランスのどの革命のあとでも労働者は武装していた、だから、国家の権力を握ったブルジョアにとって第一に必要なことは、労働者の武装を解除することであったという重要な論断を引証した。レーニンは、エンゲルスのこの総括は、「問題の核心、つまり国家の問題の核心（被・抑・圧・階級が武器をもっているかどうか？）を見事に把握している」^⑪と考えた。

パリ・コンミュニオンは、武装した革命と武装した反革命とのほげしい格闘のなかで、誕生したものである。パリ・コンミュニオンの七十二日間、武装蜂起、武装闘争、武装自衛の七十二日間であった。もつともブルジョア反動派の度肝をぬいたのは、ほかでもなく、パリのプロレタリア階級が鉄砲を握ったことであった。パリ・コンミュニオンがおかした致命的誤りは、ほかでもなく反革命に寛大すぎ、ただちにベルサイユに進軍しなかったため、ティエールに反動軍隊をふたたびかき集めて、革命のパリに猛然とおそいかかる息つぎの隙をあたえたことにある。エンゲルスは、「もしパリ・コンミュニオンがブルジョア階級に反抗して武装した人民のこの権威を利用しなかったならば、コンミュニオンはただの一日でもつづいたであろうか？ それどころか、われわれは、コンミュニオンがこの権威を利用することのあまりにすくなかったことを責めてもいいのでは

なかるるか？」^④とのべているがまさにそのとおりである。

毛沢東同志は、武装闘争と人民軍隊の重要な意義を簡潔な言葉で概括し、「鉄砲から国家権力がうまれる」^⑤という有名な論断をうち出し、また「マルクス主義の国家学説にかんする観点からみれば、軍隊は国家権力の主要な構成要素である。国家権力を奪取し保持しようとするものは、強大な軍隊をもたなければならない」^⑥と指摘している。

暴力革命は、プロレタリア革命の普遍的な原則である。マルクス・レーニン主義政党は、かならずこの普遍的な原則を堅持し、これを自国の具体的實際に運用しなければならない。歴史的経験が立証しているように、プロレタリア階級と被抑圧人民のかちとった国家権力と革命の勝利は、いずれもプロレタリア階級の政党的指導のもとに、自国の具体的な条件にもとづき、大衆闘争を幅広くおこすという基礎のうえにしたいに人民の武装力をうちたて、人民戦争をくりひろげ、帝国主義、反動派とくりかえし闘争をすすめ、鉄砲によってかちえたものである。ロシア革命がそうであり、中国革命がそうであり、アルバニア、ベトナム、朝鮮などの国の革命も例外なくみなそうである。

それとは逆に、プロレタリア階級の政党が革命の武装力をもとうとせず、あるいは、革命の武装力を放棄したため、革命が挫折をこうむったという面では、深刻な教訓がある。鉄砲を握ろう

としなかったため、帝国主義とその手先が突然の襲撃や反革命の弾圧をおこしたとき、なんの手もうてずにみすみす何百万千万の革命的大衆の命をおとさせたものもあれば、また、革命的人民がすでに武器をその手に握り、人民武装力がすでにかなりの発展をとげていた状況のもとで、ブルジョア政府の官職につくため、あるいは、反動派のワナにかかって、人民武装力をひきわたり、革命の成果をむざむざいなしにしてしまったものもある。

百年近くのあいだ、多くの共産党が選挙に参加し、議会に参加してきたが、しかし、こうした方法でプロレタリア階級独裁をうちたてた党は一つもない。たとえ、共産党が議会で多数を獲得したとしても、また、政府に参加したとしても、国家権力のブルジョア階級の性格をかえたことにはならないし、まして、古い国家機構をうちこわしたことはない。反動支配階級は選挙の無効を宣言し、議会を解散させることができるし、あるいは、じかに暴力をつかって、共産党を足げにすることができるのである。プロレタリア階級の政党がもし、大衆活動をすすめず、武装闘争をおこなわないで、議会選挙に血道をあげるなら、それは、大衆を眠りこませ、自分自身をむしばむだけである。ブルジョア階級が議会選挙をつうじて共産党を買収し、共産党を修正主義の党、ブルジョア階級の党にかえてしまったというこうした歴史的事実は、まだすくないでもないのだろうか？

プロレタリア階級は、鉄砲で国家権力を奪取しなければならないし、また、鉄砲で国家権力を守らなければならない。マルクス・レーニン主義政党的指導下にある人民軍隊は、プロレタリア階級独裁の強固な支柱であり、資本主義の復活を防ぐ諸要素のなかの主要な要素である。マルクス・レーニン主義思想で武装された人民軍隊があれば、国内外の階級闘争のなかであらわれるいかなる複雑な局面にも対処でき、プロレタリア階級の国家権力を守りぬくことができる。

現代の被抑圧民族の解放運動は、プロレタリア世界革命の重要な構成部分であり、偉大な同盟軍である。民族民主革命と社会主義革命は、つながりがあると同時に、また区別があり、段階のことなる性質の違った二つの革命である。しかし、民族民主革命の完全な勝利をかちとるには、やはり帝国主義および反動派と武力でわたりあう用意がなければならない。被抑圧民族にとっても、同じように、鉄砲を握ることはきわめて重要な意義をもっている。

第二次世界大戦いらい、アメリカをかしらとする帝国主義と新旧植民地主義は、たえず侵略戦争をおこし、ますます頻繁に、軍事干渉や武力による転覆活動、やとい軍による侵入などの手段をとって、いま独立をめざしている国と人民およびすでに独立をかちとった国と人民を弾圧してきた。ここ二十五年らい、アメリカ帝国主義が画策し、おこした武力干渉と武力侵略は、不完全な統計によっても、五十回あまりに達している。アメリカ帝国主義が策動した武力による転覆活

動にいたっては、なおさら枚挙にいとまがない。したがって、すべての被抑圧民族が解放をかちとり、自己の民族独立と国家の主権を守り、帝国主義とその手先の侵略と転覆活動に効果的に対処するには、かならず自分の手に握られた反帝の武装力をもち、いつでも革命戦争によって侵略戦争に反対する準備をととのえておかなければならない。ベトナム、ラオス、カンボジア三国人民の抗米救国戦争は、全世界の被抑圧民族と被抑圧人民に輝かしい手本をうちたてた。アジア、アフリカ、ラテンアメリカのその他多くの国と地域の人民の、侵略に反対し転覆活動に反対する闘争も貴重な経験を提供している。

毛主席は、『全世界の人民は団結して、アメリカ侵略者とそのすべての手先をうち破ろう！』というおごそかな声明のなかで、「弱国は強国をうち負かすことができ、小国は大国をうち負かすことができる。小国の人民が敢然と闘争にたちあがり、敢然と武器を手にとり、自分の国の運命を握りさえすれば、かならず大国の侵略にうち勝つことができる。これは歴史の法則である」^⑧と指摘している。

まさに林彪同志がのべているように、「人民戦争はアメリカ帝国主義およびその手先に対処するもっとも効果的な宝器である」^⑨。全世界のプロレタリア階級と被抑圧人民、被抑圧民族は、武器をもたない状態から武器をもつようになり、戦争のやり方を知らない状態から戦争のやり方

を学びとるようになるであろう。アメリカ帝国主義とそのすべての手先は、最後にはかれら自身の点じた人民戦争の烈火のなかでわが身を葬りさることになるであろう。

三、革命は何百何千万の大衆の事業である

パリ・コンミュニョンの歴史的経験は、プロレタリア革命とプロレタリア階級独裁の勝利をかちとるには、何百何千万の大衆の革命的積極性に依拠し、歴史を創造する人民大衆の偉大な力を十分に發揮させなければならないことをわれわれに教えている。レーニンは、「自覚した何百何千万の大衆の革命的行動なしには、大衆的英雄主義の偉大な満ち潮なしには、マルクスがコンミュニョン時代のパリ労働者について表現したように、『天をつく』覚悟と能力がなければ専制を廃止することはできない」^⑩とのべている。

プロレタリア階級の偉大な教師マルクスは、人民大衆の革命的創意性を高度に重視し、われわれのために革命的大衆運動に正しく対処する輝かしい手本をうちたててくれた。

パリ・コンミュニョンの成立まえ、一八七〇年の秋、マルクスはフランス労働者の蜂起の条件がまだ熟していないと指摘したことがある。だが、一八七一年三月、パリのプロレタリア階級が天をつく革命的気概で蜂起したとき、マルクスはすぐさま参加者としての態度で、このプロレタリ

ア革命をだんこ支持し、援助した。マルクスは、コンミュニョンの犯した誤りをみてとり、コンミュニョンが失敗するのを予見していたにもかかわらず、この革命をフランス労働者階級のもつとも栄えある業績であると思なしていた。なぜなら、マルクスはこの運動のなかに、「ひじょうに重要な歴史的経験、世界プロレタリア革命の一定の前進、数百の綱領や議論よりも重要な実践的行動をみてとった」^⑪からである。マルクスは当時、ルドウィヒ・クーゲルマンあての手紙で、「なんとという屈伸性、なんとという歴史的創意、なんとという自己犠牲の精神が、これらのパリ人にはあることだろう！」「歴史は、これほどの偉大さの、これほどの実例をかつて知らない！」^⑫とあふれるばかりの熱情をこめてたたえた。レーニンは、マルクスのこの手紙がプロレタリア革命家と日和見主義者との間の雲泥の差を示していると考え、「字のよめるロシアのすべての労働者の部屋の壁に、額にしてかける」^⑬よう呼びかけた。

マルクス主義者とは逆に、すべての日和見主義者、新旧修正主義者は、プロレタリア革命とプロレタリア階級独裁に反対しており、したがって必然的に、人民大衆を極度におそれ、にくみ、革命的大衆運動を嘲笑し、ののしり、破壊するものである。ロシアの一九〇五年十二月の武装蜂起が失敗したとき、プレハノフは、かたわらに立って、「武器をとるべきではなかった」と大衆を非難した。レーニンは、革命的大衆運動にたいするプレハノフのこうした貴族の旦那のよ

うな態度を怒りをこめて批判し、かれを、悪名をはせたロシアのマルクス主義の裏切り者だとさびしく糾弾した。レーニンは、一九〇五年の「総稽古」がなかったならば、一九一七年の十月革命の勝利は不可能であつたらうと指摘した。

われわれの偉大な教師毛主席は、一九五九年、彭徳懷右翼日和見主義反党集団の、革命的大衆運動を中傷し、それに反対するデタラメな論調をさびしく糾弾したさい、これら反マルクス主義裏切り者どもにむかつてつぎのように鋭く指摘した。

「諸君は、マルクスとレーニンがバリ・コミュニオンをどのように評論し、また、レーニンがロシア革命をどのように評論したかを見てみたまえ！」諸君は、レーニンがどのように裏切り者ブレハーノフを批判し、『ブルジョア紳士諸君とその腰巾着ども』を批判し、『瀕死のブルジョア階級やその尻馬にのった小ブルジョアの民主主義派の犬や豚ども』を批判したかを見ただろうか？ まだ見ていないなら、見てみたらどうか？」毛主席はこの歴史的経験でわれわれ全党を深く教育し、マルクスとレーニンを手本として、革命的大衆運動に正しく対処するようわれわれの党員と幹部に要求している。

「当面の世界のおもな傾向は革命である。」[㊦] アメリカ侵略者とそのすべての手先をうち倒す各国人民のおたけびは、全世界を震撼させている。帝国主義の戦略的後方は、すでに反帝闘争の

前線と化している。インドシナ三国人民の抗米救国戦争が勝利のうちに発展していることは、世界的規模の反米闘争の新しい高まりを促している。二つの超大国の覇権主義に反対する闘争は、ますます大きくもりあがっている。アジアとアフリカの民族解放運動は、燃えさかる炎のようなすさまじい勢いで発展している。米日反動派の日本軍国主義復活に反対する朝鮮、日本およびアジア諸国人民の闘争は日ましに高まっている。パレスチナとアラブ人民は、アメリカ・イスラエル侵略者に反対する戦闘でひきつづき前進している。北アメリカ、ヨーロッパ、オセアニアでは、これまででない規模の革命的な大衆運動がおこっている。アメリカの労働者と学生、黒人およびその他の少数民族は日ましにめぐめ、ニクソン政府の反動支配と侵略政策に反対する革命のあらしをまきおこしている。米帝の「裏庭」ラテンアメリカでは、長いあいだ人民の胸のなかにおさえられていた反米の怒りが爆発し、民族の利益と国家の主権を守るため、連合してたたかうという新しい局面があらわれている。東ヨーロッパの一部の国の人民の、社会帝国主義反対の革命闘争は、いま勢いよく発展しつつある。これまでずっと比較的沈滞していた地域でも革命の春雷がとどろいている。これらすべての闘争は、互いに呼応し、促しあい、一つに合流して、強大な世界人民の革命運動の奔流となっている。

当面のこの偉大な革命運動を前にして、かれらの先頭に立ってかれらを指導するか、それとも

かれらのうしろに立ってかれらをあれこれと批判するか、それともかれらの向かい側に立ってかれらに反対するか？ すべての革命政党と革命者は、みな自分の選択をしなければならない。真のマルクス・レーニン主義政党とすべての革命者は、人民大衆の革命的行動を熱情こめて支持し、断固として大衆運動の先頭に立ち、大衆を指導して前進しなければならない。

プロレタリア階級の政党とすべての革命者はみな、「風雨にさらされ、世間を知るべきである。この風雨とは大衆闘争という大風雨、この世間とは大衆闘争という大世界である」^⑤。かならず大衆と呼吸をともにし、運命をともにし、虚心に大衆に学び、すすんで大衆の小学生になり、大衆の革命的創意性をみいだすことに長じ、大衆から知恵と力をくみとらなければならない。プロレタリア階級の政党は、大衆運動のあらしのなかに身を投じてこそはじめて鍛えられ、成長することができるのである。正しい綱領、路線も広はんな大衆の階級闘争の実践のなかではじめて生まれ、発展するのであり、そして、検証され、貫徹実行されるのである。

革命的な大衆運動の主流は、つねによいものであり、つねに社会の発展に適応したものである。大衆運動には、さまざまの思潮が影響し、さまざまの派があらわれ、さまざまの人物が参加するであろうが、これはごく自然なことである。世界には純粋なうえにも純粋な事物などないのである。広はんな大衆は、闘争の実践をつうじ、くりかえし比較したうえ、最後には、なにが正しい

ものであり、なにが誤ったものであるかを見きわめるであろうし、最後には、修正主義とすべての誤ったものをして、マルクス・レーニン主義の革命の真理をうけいれ、把握するであろう。プロレタリア階級の政党は、大衆のなかに深くはいつて、長期にわたる、なみなみならぬ、辛抱強い活動をすすめる、たえず大衆の政治的自覚を高め、大衆運動を正しい道にそって前進するようみちびかなければならない。

革命のいちばん重要な問題は、敵と友を見分け、真の友と団結して、真の敵を攻撃することである。革命的大衆運動の発展は、革命勢力の内部の団結をたえず強化し、帝国主義、修正主義、反動派の分裂、破壊の陰謀を粉碎するよう要求している。人口の九〇パーセント以上を占める人民、労働者、農民、学生および、帝国主義の抑圧を受けるのをぞまないすべての人びとは、つねに革命をもとめるものである。アメリカ帝国主義とそのすべての手先にうち勝つためには、広はんな統一戦線を結成し、敵をのぞく団結できるすべての勢力と団結して、困難にみちた闘争をすすめるなければならない。

毛沢東同志は、「共産党にとって基本的なことは、広はんな革命的な人民大衆に直接依拠することである」^⑥と指摘している。権力を奪取するとき、大衆に依拠し、大衆運動をおこなわなければならない。プロレタリア階級独裁をうちたてたあと、社会主義革命と社会主義建設をすすめる

ときにも、同じように大衆に依拠し、大衆運動をおこなない、あらゆる活動で大衆路線を堅持しなければならぬ。「われわれが人民に依拠しさえすれば、また人民大衆の創造力が無限であることを確信して、人民を信頼し、人民と一つにとけあいさえすれば、どんな困難も克服でき、どんな敵にも圧倒されず、われわれがこれを圧倒するだけである。」^④

四、真のマルクス・レーニン主義の政党がなければならぬ

マルクスとエンゲルスは、パリ・コミューンの経験を総括したさい、「有産階級の集合権力にたいする闘いで、労働者階級が階級として行動できるのは、有産階級によってつくられたすべての旧来の党に対立する別個の政党に自分自身を組織する場合だけである」^⑤と明確に提起した。これは、プロレタリア革命の勝利をたたかいたとき、プロレタリア階級独裁をうちたて、強固にし、階級消滅という最終目的を実現するのに欠くことのできない条件である。

パリ・コミューン失敗の根本的な原因は、当時の歴史的条件的制約によって、マルクス主義がまだ労働運動のなかで支配的地位を獲得しておらず、マルクス主義を指導思想とするプロレタリア階級の革命政党がまだなかったことにある。そして、パリ・コミューンのなかで優位を占めていたブランキ主義とブルードン主義には、プロレタリア革命を勝利へみちびくことができる

はずはなかった。

歴史の経験は、すばらしい革命の情勢があり、人民大衆の革命的積極性があり、そのうえにかならずプロレタリア階級の確固とした指導的の中核、すなわち、「マルクス・レーニン主義の革命理論と革命的風格にもとづいてうちたてられた革命政党」^⑥があつてはじめて、プロレタリア階級と広はんな人民を指導して、帝国主義とその手先にうち勝ち、革命の勝利をかちとることができるということを立てている。

第一次世界大戦のとき、多くの国に革命の情勢があらわれた。しかし、第二インターの大多数の政党が、修正主義の、社会ショービニズムの党に転落してしまつたため、プロレタリア階級をみちびいて権力を奪取することなどまったく問題にならなかつた。ただロシアだけが、レーニンの創設したボリシェビキ党の指導のもとに、偉大な十月社会主義革命の成功をかちとつたのである。

第二次世界大戦の期間と戦後、中国では、毛主席を指導者とする中国共産党の指導によって、革命は勝利をかちとつたのであり、その他の一部の国も、マルクス・レーニン主義政党の指導のもとに、あいついで革命の勝利をかちとつたか、あるいは長期にわたる革命闘争を堅持している。一方、一部の国では、日和見主義、修正主義の路線が党内で優位を占めたため、革命は失敗

した。

いま、世界革命には、これまでにないたいへんすばらしい局面があらわれている。客観的情勢は、さしせまって、真のマルクス・レーニン主義政党的の確固とした指導を必要としており、修正主義路線と徹底的に決裂した、思想的、政治的、組織的に強固な、広い大衆性のあるプロレタリア階級の革命政党的の建設を必要としている。

プロレタリア階級の政党的が、革命を指導する任務をにないうるためには、その根本的な問題は、マルクス・レーニン主義を自己の指導思想とし、マルクス・レーニン主義の普遍的真理を自国の革命の具体的実践と結びつけ、自国の状況に適した正しい路線をさだめ、実行することである。路線が正しければ、力が弱小であっても、発展し強大になることができ、武装力がなくても、それをうちたてることができ、権力がなくてもそれをかちとることができる。路線が誤っていれば、革命は挫折し、すでにかちとった成果をも失ってしまう。

毛沢東同志は中国人民の革命を指導する長期にわたる闘争のなかで、「マルクス・レーニン主義の普遍的真理がひとたび中国革命の具体的実践と結合すると、中国革命は面目を一新した」^⑩「マルクス・レーニン主義の理論を中国革命の実践とかく結びつけること、これはわが党的の終始一貫した思想上の原則である」^⑪とくりかえし指摘している。

毛沢東同志は日本の労働者の友人たちにおくった重要な題辞でこの根本原則を一步すすんで解明して、「マルクス・レーニン主義の普遍的真理と日本革命の具体的実践とを結びつけること、これを真剣になしとげさえすれば、日本革命の勝利はまったく疑いない」^⑫と指摘している。

プロレタリア階級の政党的はマルクス・レーニン主義の基本的原理にもとづき、マルクス・レーニン主義の立場、観点、方法を運用して、社会の階級関係を深くほりさげて調査研究し、自国の現状と歴史、自国の革命の特徴を具体的に分析し、自国の革命の理論問題と実際問題を独立自主で解決していかなければならない。国際的な経験は学ばなければならないが、しかし、機械的にひき写しにしてはならず、自国の実際と結びつけて、自己の経験をつくり出さなければならぬ。こうしてこそ、革命を勝利へみちびき、プロレタリア世界革命の事業に自己の貢献を果たすことができるのである。

プロレタリア階級の政党的が、理論と実践を結びつけることを堅持するには、かならず大衆と密接に結びつき、大衆のなかに深くはいり、「大衆のなかから大衆のなかへ」^⑬という指導方法を実行して、党的の正しい路線と方針を大衆の行動に変えなければならない。同時に、経験教訓の総括に長じ、批判と自己批判をくりひろげて、人民の利益のために正しいものを堅持し、誤ったものを改め、闘争の実践のなから法則的なものをさがし出し、そのうえで闘争の実践を指導しな

ければならない。

毛沢東同志は、「党内における異なった思想の対立と闘争は、つねに発生するものである。それは社会の階級的矛盾と新旧事物の矛盾が党内に反映したものである」^⑧と指摘している。プロレタリア階級の政党が自己の政治路線の正しさと組織面での強固さを保証するには、かならずあらゆる日和見主義、修正主義と妥協のない闘争をすすめ、ブルジョア階級およびすべての搾取階級の思想と妥協のない闘争をすすめなければならない。

マルクス・レーニン主義と修正主義との闘争、国際共産主義運動における二つの路線の闘争は長期にわたるものである。十数年らい、中国共産党、アルバニア労働党は、全世界の真のマルクス・レーニン主義者とともに、思想、理論、政治の面からソ修を中心とする現代修正主義にたいし断固たる闘争をすすめて偉大な勝利をかちとった。しかし、闘争はまだ終わってはいない。プロレタリア世界革命をたえず推進していくため、各国のマルクス・レーニン主義政党と革命的人民の重要な任務の一つは、ソ修を中心とする現代修正主義をひきつづき批判し、この闘争を最後までやりぬくことである。

ブルジョア階級とすべての搾取階級の思想は、社会で長期にわたって支配的地位にある。発達した資本主義国であらうと、あるいは経済のたちおくれた国であらうと、共産党が合法的地位に

あらうと、あるいは非合法的地位にあらうと、プロレタリア階級が権力を奪取するまえであらうと、あるいはプロレタリア階級独裁をうちたてたあとであらうと、ブルジョア階級は、つねにいろいろな方式と経路をつうじて極力思想の面から共産党に影響をあたえ、それをむしばみ、「溶解」させようとするものである。もしブルジョア思想の浸食と断固とした闘争をすすめないなら、プロレタリア階級の政党は、思想、政治、組織の面における自己の独立性を保つことができず、ブルジョア階級とその政党の追隨者にかわってしまふ。マルクス・レーニン主義の批判の武器をもって思想の領域における階級闘争を堅持し、プロレタリア階級の世界観で、ブルジョア階級の反動的な世界観にうち勝ってこそはじめてプロレタリア階級の戦闘力を発揮し、プロレタリア革命とプロレタリア階級独裁の勝利をかちとることができるのである。

五、現代修正主義は

パリ・コンミュニンの革命的原則の裏切り者である

全世界のプロレタリア階級と革命的人民がパリ・コンミュニンを百年を盛大に記念しているとき、ソ修裏切り者集団はこともあらうによそおいをこらして登場し、「パリ・コンミュニンの原則に忠実である」^⑨などとうそぶき、自分をパリ・コンミュニンの継承者にしたてているが、ま

まったく恥しらずもはなはだしいことである。

ソ修裏切り者どもにパリ・コンミュニオンを論じる資格などどこにあるだろうか？ ほかならぬきみたち一味がソ連の党と国家の指導権をかすめとって、レーニンがきずきあげ、スターリンが守ったソビエト国家を変色させてしまったのである。きみたちは、プロレタリア階級独裁をブルジョア階級独裁に変え、社会帝国主義と社会ファシズムを実行している。これは、パリ・コンミュニオンの革命的原則にたいする最大の裏切りである。

フルシチョフからブレジネフにいたるまで、いずれも「全人民の国家」という看板でかれらのブルジョア階級独裁をおおいかくそうとたくらんでいる。かつて、フルシチョフは、ソ連はすでに「全人民の国家に変わった」^⑧などといった。いままたブレジネフのやからも、かれらの国家は「ソビエト社会主義全人民国家」^⑨であり、かれらの実行しているのは、「ソビエト民主主義」であるなどといった。これはことごとく人だましのたわごとである。

ソビエト、これはロシアのプロレタリア階級の偉大な創造であり、勤労人民が国の主人公になることの体現であり、栄えある名称である。しかし、ソビエトという名称は、共産党という名称と同じように、ボリシェビキも使えれば、メンシエビキも使うことができ、マルクス・レーニン主義者も使えれば、修正主義者も使うことができる。問題は名称によってきまるのではなく、実

質によってきまるのであり、形式によってきまるのではなく、内容によってきまるのである。ことにちのソ連では、ソビエトという名称は変わってはおらず、国家の名称は変わってはいないが、その階級的内容はまったく変わってしまった。ソ修裏切り者集団によって指導権をかすめられたソビエト国家は、もはやプロレタリア階級がブルジョア階級を弾圧する道具ではなくて、復活したブルジョア階級がプロレタリア階級を弾圧する道具なのである。ソ修裏切り者どもは、ソ連をひとにぎりの新しい型の官僚独占ブルジョア階級の樂園に変え、何百何千万の勤労人民の監獄に変えたが、これがつまりかれらのいう、いわゆる「ソビエト社会主義全人民国家」と「ソビエト民主主義」の全容である。「全人民の国家はプロレタリア階級独裁国家の直接の延長」^⑩などというものではまったくなく、ブレジネフ路線はフルシチョフ路線の「直接の延長」なのである。これがこんにちブレジネフのやからが「全人民の国家」というスローガンにしがみついていることの実質なのである。

ソ修裏切り者集団のパリ・コンミュニオンの革命的原則にたいする裏切りは、また、かれらがプロレタリア階級の暴力革命に狂気のように反対していることに集中的にあらわれている。ブレジネフのやからは「プロレタリア階級の指導者は、闘争の各段階で暴力を最低限におさえなければならぬ」、「いっそう穩健な強制の形態をとる」とか、「武装闘争、国内戦争は大規模な犠牲

と人民大衆の苦痛をもたらし、生産力の破壊をもたらし、優秀な革命的幹部の命をうばってしま
う」などとわめいている。これらの裏切り者どもは、かれらのいわゆる「平和移行」のデタラメ
な論調の口実をつくるため、こともあろうに歴史を勝手にねじまげて、パリ・コンミュンは
「はじめは」「ほとんど血をまったく流さない革命であった」^⑧などと鼓吹している。

パリ・コンミュンの革命は、終始プロレタリア階級とブルジョア階級のあいだの生死をかけ
た激しい闘争であり、革命と反革命のあいだの暴力闘争であった。パリ・コンミュンの蜂起の
まえ、半年足らずのあいだに、パリ人民は二度も武装蜂起をおこない、いずれも反動派の血の弾
圧にあった。そして、パリ・コンミュンの蜂起後の戦闘でまたも、数万の労働者と勤労人民が
その命をささげたのである。この革命を「はじめは」「ほとんど血をまったく流さなかった革
命」などとどうしていえるだろうか？ マルクスはかつて、「労働者のパリは、そのコンミュ
ンとともに、新社会の光栄ある先駆者として永久にたたえられるであろう。これに命をささげた
人びとは、労働者階級の偉大な心のうちに永久にまつられている。これをほろぼした殺人鬼ども
を、すでに歴史はあの永遠のさらし台に釘づけにしたのだ。かれらの僧侶どもがどんなにのっ
たとところで、かれらを救うことはできないであろう」^⑨と指摘した。ところがいま、ソ修裏切り
者集団は公然とおどり出て、殺人鬼に祈りをささげる僧侶の役をつとめている。これはパリ・コ

ンミュンに命をささげた人びとにたいするこのうえない侮辱である。

ソ修裏切り者どもは、反革命の暴力を極力弁解し、革命の暴力にたいしては逆に歯ざりして
悪罵をあびせている。帝国主義と反動派の暴力支配のもとで、勤労人民は毎日寸秒も休みなく限
りない苦痛をなめ、大量に死亡している。被抑圧人民が暴力革命をおこなうのは、人が人を食う
制度を終わらせ、人民を奴隷化と搾取のもとから解放するためにほかならない。ソ修裏切り者
どもは、こともあろうに、革命の武装力、革命の戦争に、やれ「人民の苦痛」をつくり出すと
か、やれ「幹部の命をうばう」とか、やれ「生産力を破壊する」などと数かずの罪名をきせてい
る。ソ修裏切り者のこうした論理によれば、帝国主義と反動派が人民を抑圧し、人民を虐殺する
ことは正当なことになり、革命的人民が武器をとって反抗に決起することは、逆にこのうえない
罪悪だということになるではないか？

ソ修裏切り者どもは、各国人民に革命の暴力を「最低限におさえる」よう要求しておきなが
ら、かれら自身は逆に反革命の暴力をたえず最大限にまで強めている。ブレジネフのやからはソ
連人民の死活をかえりみず、軍国主義、軍備競争を大いにすすめ、湯水のようにルーブルをつぎ
こんで、飛行機、大砲、軍艦、ミサイル、核兵器をふんだんにつくっている。かれらはほかでも
なく、このぼう大な暴力機構を使って、国内では広はん人民を抑圧し、対外的には新ツアアの

植民地主義支配を維持し、またなんとかして一部の国を自分の支配下におこうとしているのである。かれらはほかでもなくこの暴力機構を、アメリカ帝国主義とかけひきをし、強権政治をおしすすめ、勢力圏を分割する元手にしているのである。

ソ修裏切り者どもは、革命的人民には、反革命にたいして「穏健な強制の形態」をとるよう要求しておきながら、かれら自身は逆にもっとも野蛮で、もっとも残酷な手段にうったえて革命的人民に対処している。

ここだろうかいたい。

きみたちは、大勢の武装した軍隊と警官隊を出動させて、国内の各民族人民を弾圧しているが、これが「穏健」な形態だともいうのだろうか？

きみたちは、東ヨーロッパの一部の国とモンゴルに大量の軍隊を駐とんさせて、これらの国をきびしい支配のもとにおき、はては戦車をプラハに乗り入れさせ、チェコスロバキアにたいして軍事占領を実行しているが、これが「穏健」な形態だともいうのだろうか？

きみたちは、いたるところで軍事的拡張をおこない、他国にたいしてさまざまの陰險な転覆活動をすすめているが、これも一種の「穏健」な形態だともいうのだろうか？

ソ修裏切り者どもものやることなすことは、かれらが暴力革命に反対しているばかりか、暴力に

うったえて革命に反対していることを、あますところなく物語っている。かれらは、世を憂えるかのようによそおっているが、その実、「労働者のもっとも凶悪な敵であり、羊の皮をまとった狼」^④なのである。

このほかに、日本の宮本修正主義集団というのがいて、これも必死になって暴力革命に反対し、プロレタリア階級独裁に反対し、「百パーセント」議会の道をあゆむことを鼓吹している^⑤。かれらは苦心さんたんして、「暴力」ということばは字引きでは「乱暴な力」、「無法な力」という意味であって、人民はそうした革命をやってはならないなどといっている^⑥。また、プロレタリア階級独裁ということばにたいして、「物騒だ」というものがあるが、このことばの訳語は、「なかなかなじめない」ものであり、これから「真に正確な翻訳」をしなければならぬなどといっている^⑦。宮本集団は、アメリカ帝国主義と日本軍国主義の暴力を守り、日本人民が革命に立ちあがるのに反対するため、こともあろうに字引きにすがって、字義の考証をもてあそんでいる。これは、現代修正主義の精神的墮落がもうどこまでできているかを示している。

毛沢東同志は、「社会主義制度は、とどのつまり、資本主義制度にとってかわるであろう。これは人びとの意志によっては左右できない客観法則である」^⑧と指摘している。現代修正主義の第一の代表フルシチョフは、とつくに歴史のごみために掃きすてられた。フルシチョフ修正主義

路線に追随するノボトニー、ゴムルカも、つぎつぎと失脚した。およそ歴史の法則にそむき、パリ・コンミュニョンの革命的原則を裏切り、プロレタリア革命とプロレタリア階級独裁を裏切る者には、けっしてよい末路はありえないと断言することができる。

六、プロレタリア階級独裁のもつてひきつづき革命を

おこなうことを堅持し、いっそう大きな勝利をかちとろう

パリ・コンミュニョンらしいの歴史的経験、とりわけ十月革命らしいの歴史的経験は、プロレタリア階級が国家権力をかちとることは、社会主義革命の終わりではなくて、社会主義革命の始まりであることを立証している。プロレタリア階級独裁をうち固め、資本主義の復活を防ぐには、社会主義革命を最後までやりぬかなければならない。

世界のプロレタリア革命運動は、まがりくねった道をたどってきた。十月革命のふるさとに資本主義の復活があらわれたとき、パリ・コンミュニョンの革命的原則は、まだききめがあるかどうか、十月革命はまだききめがあるかどうか、プロレタリア階級独裁はまだききめがあるかどうか、一時問題になったかのようだった。帝国主義と反動派は手をうって喜び、有頂天になった。かれらは、ソ連で「平和的転化」ができた以上、中国のプロレタリア階級独裁も同じようなやり

方でくつがえすことができるのではないかと考えた。ところが、毛主席みずから起こし指導するプロレタリア文化大革命の砲声がとどろくや、裏切り者、敵のまわし者、労働者階級の奸賊劉少奇をかしらとするブルジョア階級司令部はたたきつぶされ、中国で資本主義を復活させようとした帝国主義と現代修正主義のはかない夢は粉碎された。

毛主席は、プロレタリア階級独裁の正反両面の歴史的経験を全面的に総括し、プロレタリア革命とプロレタリア階級独裁についてのマルクス・レーニン主義の理論をうけつぎ、守り、発展させ、プロレタリア階級独裁のもつてひきつづき革命をおこなう偉大な学説をうち出して、理論と実践の面から、プロレタリア階級独裁をうち固め、資本主義の復活を防ぐという、現代におけるもっとも重要な課題を解決し、マルクス・レーニン主義に偉大な新たな貢献をし、われわれのため、プロレタリア革命を最後までやりぬく勝利の航路を切りひらいた。中国のプロレタリア文化大革命のなかで、毛沢東思想と毛主席の革命路線は、幾億もの人民大衆の革命的实践とますます深く結びついて、プロレタリア階級独裁をうち固めるもつとも偉大な力となっている。

社会主義社会はさうとう長期にわたる歴史的段階である。この歴史的段階においては、終始階級、階級矛盾と階級闘争が存在する。そして、闘争の中心問題は、やはり権力の問題である。敗北した階級はなおあがきをつづけるものであり、これらの連中はまだ生きており、この階級はま

だ存在している。かれらは、資本主義を復活させるため、きまって共産党の内部にその代理人をさがし求めるものである。したがって、プロレタリア階級は、ティエールやビスマルクのような敵が、武力で革命の権力をくつがえすのを警戒しなければならぬだけでなく、フルシチョフやブレジネフのような野心家、陰謀家が、内部から党と国家の指導部をのつとるのをとくに警戒しなければならぬ。プロレタリア階級独裁をうち固め、資本主義の復活を防ぐため、プロレタリア階級は、経済戦線における社会主義革命をすすめるほか、さらに政治戦線と思想・文化戦線における社会主義革命をすすめる、文化の各領域をふくむ上部構造で、ブルジョア階級にたいして全面的な独裁をおこなわなければならない。マルクス主義、レーニン主義というこのもつとも鋭い武器を、党員と幹部、広はん大衆に把握させ、かれらに、なにか正しい路線で、なにか誤った路線なのか、なにか真のマルクス主義で、なにかニセのマルクス主義なのか、なにか唯物論で、なにか観念論のかを見分けられるようにさせて、われわれの党と国家が、永遠に毛主席のプロレタリア革命路線にそって前進するのを保証しなければならない。

毛主席は、「ひとつの社会主義国の最終的勝利は、自国のプロレタリア階級と広はん人民大衆の努力が必要であるばかりでなく、世界革命の勝利に期すべきであり、人が人を搾取する制度が全地球から消滅されて、全人類が解放されるのに期すべきである」^④と指摘している。

プロレタリア階級の革命運動はもともと国際的なものである。したがって、プロレタリア革命とプロレタリア階級独裁の勝利をかちとるには、かならず、「万国のプロレタリア団結せよ！」^⑤「万国のプロレタリアと被抑圧諸民族団結せよ！」^⑥という偉大なスローガンを実行しなければならない。資本主義国のプロレタリア階級は植民地・半植民地人民の解放闘争を支持し、植民地・半植民地人民は資本主義国のプロレタリア階級の解放闘争を支持し、すでに革命の勝利をかちとった人民は、いま解放をめざしている人民の闘争を援助しなければならない。これがプロレタリア国際主義の原則である。

中国革命は世界革命の一部分である。中国人民の革命事業は、世界各国人民の革命事業と切っても切れない関係にあり、ひとつにつながっている。われわれは、一貫して各国人民の革命闘争を自分自身の闘争とみなし、中国人民にたいする援助とみなしている。われわれは、各国の革命的人民に学び、かれらの闘争をだんこ支持し、われわれの果たすべき義務を履行しなければならない。われわれはプロレタリア国際主義の精神を発揚して、全世界の真のマルクス・レーニン主義の政党、組織との戦闘的団結をいちだんと強め、全世界のプロレタリア階級、被抑圧人民、被抑圧民族との戦闘的団結をいちだんと強めて、いっそう大きな勝利をかちとらなければならない。

マルクスは、百年前、「パリにおけるコンミュニョンの運命がどうあるかと、それは世界をへめ

ぐるにちがいない」^⑥と指摘したことがある。マルクスのこの偉大な予言は、ますます輝かしい現実となりつつある。過去をふりかえり、未来を展望して、われわれは、いっそう固い信念をもつてつぎのことを宣言する。帝国主義、現代修正主義、各国反動派の最終的滅亡とプロレタリア階級、被抑圧人民、被抑圧民族の徹底的な解放はいずれも不可避のものである。

こんにち、パリ・コンミュニョンの詩人、ウージェーヌ・ポティエが書いた『インターナショナル』はすでに全世界にひびきわたっている。「ふるい世界をこっぴみじんうち砕くのだ」「われらは世界の主人公になるのだ」「団結して、たちあがろう、明日には、インターナショナルはかならず実現する！」帝国主義と社会帝国主義、すべての反動派を世界人民の革命のあらしの前にふるえあがらせようではないか！「プロレタリアが、この革命で失うものは鉄鎖だけである。かれらが得るのは全世界である。」^⑦

注

- ① エンゲルス「パリ・コンミュニョン二十一年にさいしフランス労働者にあてた祝賀メッセージ」、『マルクス、エンゲルス全集』中国語版、第二十二巻、第三三一ページ。
② マルクス「パリ・コンミュニョン一周年記念集会の決議」、『マルクス、エンゲルス全集』中国語版、第十八巻、六一ページ。

- ③ マルクス「パリ・コンミュニョンについての演説の記録」、『マルクス、エンゲルス全集』中国語版、第十七巻、第六七七ページ。
④ マルクス「フランスにおける内乱」、『マルクス、エンゲルス全集』中国語版、第十七巻、第三五五ページ。
⑤ マルクス「フランスにおける内乱」、『マルクス、エンゲルス全集』中国語版、第十七巻、第三六〇ページ。マルクス「クーゲルマンへの手紙」(一八七一年四月十二日)、『マルクス、エンゲルス、レーニン、スターリンがパリ・コンミュニョンを論ずる』中国・人民出版社一九七一年第二版、第二一五ページ。
⑥ マルクス「国際労働者協会創立七周年祝賀会での演説」、『マルクス、エンゲルス全集』中国語版、第十七巻、第四六八ページ。
⑦ 注⑥と同じ。
⑧ マルクス「フランスにおける内乱」、『マルクス、エンゲルス全集』中国語版、第三五八ページ。
⑨ レーニン「国家と革命」、『レーニン全集』中国語版、第二十五巻、第三八九ページ。
⑩ レーニン「共産主義インターナショナル第一回大会」、『レーニン全集』中国語版、第二十八巻、第四四三ページ。
⑪ 毛沢東「当面の情勢とわれわれの任務」、『毛沢東選集』北京外文出版社日本語版、第四巻、第

二三〇ページ。

- ⑬ マルクス、エンゲルス「ロンドンで開催されたパリ・コミューン記念スラブ人集会議長へ」、『マルクス、エンゲルス全集』中国語版、第十九卷、第二七一ページ。
- ⑭ レーニン「国家と革命」、『レーニン全集』中国語版、第二十五卷、第四三六ページ。
- ⑮ エンゲルス「権威について」、『マルクス、エンゲルス全集』中国語版、第十八卷、第三四四ページ。
- ⑯ 毛沢東「戦争と戦略の問題」、『毛沢東選集』北京外文出版社日本語版、第二卷、第二九九ページ。注⑮と同じ。
- ⑰ 毛沢東「全世界の人民は団結して、アメリカ侵略者とすべての手先をうち破ろう！」（一九七〇年五月二十日）。
- ⑱ 林彪「人民戦争の勝利万歳」（一九六五年九月三日）。
- ⑲ レーニン「ロシア革命における社会民主党の農業綱領」、『レーニン全集』中国語版、第十五卷、第一五二ページ。
- ⑳ レーニン「国家と革命」、『レーニン全集』中国語版、第二十五卷、第四〇一ページ。
- ㉑ マルクス「クーゲルマンへの手紙」（一八七一年四月十二日）、『マルクス、エンゲルス、レーニン、スターリンがパリ・コミューンを論ずる』中国・人民出版社一九七一年第二版、第二一五ページ。

㉒ レーニン「マルクスのクーゲルマンへの手紙のロシア語訳序文」、『レーニン全集』中国語版、第十二卷、第一〇一ページ。

㉓ 毛主席の、『マルクス主義者は革命的大衆運動にいかにか正しく対処すべきか』にたいする評語（一九五九年八月十五日）。毛主席がこの評語のなかで引用したレーニンのことばは、「偉大な創意」、『レーニン全集』中国語版、第二十九卷、第三八六ページと「十月革命四周年によせて」、『レーニン全集』中国語版、第三十三卷、第三五ページを参照。

注⑳と同じ。

㉔ 毛沢東「組織せよ」、『毛沢東選集』北京外文出版社日本語版、第三卷、第二二四ページ。

㉕ 『红旗』誌一九六八年第四号社説「プロレタリア階級の新鮮な血液を吸収しよう」から引用。

㉖ 毛沢東「連合政府について」、『毛沢東選集』北京外文出版社日本語版、第三卷、第三八二ページ。

㉗ マルクス、エンゲルス「ハーグで開催された一般大会の諸決議」、『マルクス、エンゲルス全集』中国語版、第十八卷、第一六五ページ。

㉘ 毛沢東「全世界の革命勢力は団結して帝国主義の侵略とたたかおう」、『毛沢東選集』北京外文出版社日本語版、第四卷、第三七二ページ。

㉙ 毛沢東「われわれの学習を改革しよう」、『毛沢東選集』北京外文出版社日本語版、第三卷、第一二二ページ。

㉚ 毛沢東「中国共産党第八回全国代表大会における開幕の辞」（一九五六年九月十五日）。

③② 毛主席が日本の労働者の友人たちに贈った重要な題辞（一九六二年九月十八日）、一九六八年九月十八日づけ「人民日報」。

③③ 毛沢東「指導方法のいくつかの問題について」、『毛沢東選集』北京外文出版社日本語版、第三卷、第一七〇ページ。

③④ 毛沢東「矛盾論」、『毛沢東選集』北京外文出版社日本語版、第一卷、第四五三ページ。

③⑤ ソ修「コムニスト」誌一九七一年第二号の論文「パリ・コムニオンと現代の現実」。

③⑥ 一九六一年十月十八日ソ修「第二十二回大会」におけるフルシチョフの「ソ連共産党綱領」についての報告。

③⑦ 一九七〇年四月二十一日レーニン生誕百周年「記念」集会におけるブレジネフの報告。

③⑧ ソ修「プラウダ」紙の一九七〇年六月七日の論文「全人民の国家と民主主義」。

③⑨ F・コンスタンチンノフらの編集した反中国の黒い本、ソ連・「思想」出版社一九七〇年八月出版、第一一九〜二二〇ページ。

④① マルクス「フランスにおける内乱」、『マルクス、エンゲルス全集』中国語版、第十七巻、第三八四ページ。

④② エンゲルス「『イギリス労働者階級の状況』一八九二年ドイツ語第二版序文」、『マルクス、エンゲルス全集』中国語版、第二十二巻、第三七三ページ。

④③ 野坂参三の談話、一九七一年一月三日づけ「赤旗」。

④④ 日修のレーニン生誕百周年「記念」講演会における蔵原惟人の講演、一九七〇年四月二日づけ「赤旗」。

④⑤ 日修京都府委員会の主催した集会における宮本顕治の講演、一九七〇年三月二十日づけ「赤旗」。

④⑥ 毛沢東「ソ連最高会議の偉大な十月社会主義革命四十周年祝賀会における講話」（一九五七年十一月六日）。

④⑦ 中国共産党第九回全国代表大会における林彪同志の報告から引用。

④⑧ マルクス、エンゲルス『共産党宣言』中国・人民出版社一九六四年版、第五八ページ。

④⑨ レーニン「ロシア共産党（ボ）モスクワ組織の活動分子の会合」での演説、『レーニン全集』中国語版、第三十一巻、第四一二ページ。

④⑩ マルクス「『フランスにおける内乱』第一草稿」、『マルクス、エンゲルス全集』中国語版、第十七巻、第五八七ページ。

④⑪ 注④⑦と同じ。

プロレタリア階級独裁の勝利万歳

—パリ・コンミュン百周年を記念して—

1971年 初版発行

定価 50 円

出版者

外 文 出 版 社

(北京阜成門外百万荘)

発行者

中 国 国 際 書 店

(北 京 P. O. Box 399)

編号: (日) 3050-2322

3-J-1234P
00022

